

取り換えられた命

ヨハネによる福音書一八章28〜40節

(火)

「過越祭には、誰か一人をあなたがたに釈放するのが慣例になっている。あのユダヤの王を釈放してほしいか。」すると、彼らは叫んで、「その男ではない。バラバだ」と言った。(39、40)

イエスの裁判をした総督ピラトは、イエスを何とか赦そうと考え、過越祭の慣例を持ち出して、イエスを赦してやろうと群衆に提案します。ところが、人々はイエスではなく極悪人バラバを赦してほしいと叫びました。その声が勝って、バラバが赦され、罪のないイエスが十字架につけられることになりました。ここに驚くべき交換が起こったのです。ルターはこれを「喜ばしき交換」と表現しました。この交換はバラバとイエスとの間だけでなく、私たちの間においてもなされました。罪のない主イエスが私たち罪人のために十字架で死んでくださったことにより、罪ある私たちが罪なき者として神に赦されたのです。バラバとともに、私たちも十字架の主イエスを見あげながら告白しようではありませんか。「ナザレのイエスは、私の罪のために十字架にかけられたのだ」と。